

岐阜県

かにしりついまわたりみなみ

可児市立今渡南小学校

夢をもち、学校・家庭・地域でつなぐホタルの
かがやき～生き物を大切にする心～

校内のビオトープ「いまみ川」「ほたる川」に、ホタルをたくさん飛ばそうと産卵、孵化、幼虫の世話と成虫になるまでの一連の飼育活動を、児童、職員、保護者、地域の住民、市が連携、協力し合っている。6年生は、総合学習のテーマに「環境」があり、カワニナを取りに行く可児川の水質調査を行ったり、「ホタル講習会」で飼育の仕方を学ぶ等の活動を行っている。ホタル飼育と環境を関わらせ、ホタルに愛着をもち、「生き物を大切にする心」、「ホタルの生きる自然環境を大切にする態度」を身に付けることを目的とし、児童が主体的に活動を企画し、情報発信を行うことで地域とのつながりを育んでいる。



「2015 こどもホタルレンジャー」

活動報告用紙

※この用紙には、先生や団体の代表者の方が記入してください。

① 団体名 (学校、企業、NGO/NPO等)	よみがな かにしりついまわたりみなみしょうがっこう 可児市立今渡南小学校		
② 代表者ご連絡先	氏名	飯田 佳子	よみがな いいだ よしこ
③ 活動名「タイトル」	よみがな ほたるのたまごからふかまでのしくかつどう ホタルの卵から孵化までの飼育活動		
④ 活動場所	校内ビオトープ、ホタル室、可児川		
⑤ 今回活動した こどもの学年・人数	小学1～6年 514人		
⑥ 活動期間	2015年4月1日～2016年3月31日	継続年数	23年
⑦ おもな受賞歴	岐阜県ふるさと教育表彰 優秀賞「ホタル飼育」(2015) 「全国学校・園庭ビオトープコンクール2015」奨励賞(2015) 「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013ー生きものってすごいねー」 財団法人日本生態系協会賞(2013) 「全国学校・園庭ビオトープコンクール2011ーわたしもあなたもみんな生きもの」 財産法人日本生態系協会賞(2011) 「全国学校 ビオトープコンクール2009ーいのちいろいろみんななかよく」銀賞 (2009) 「地球ピカピカ大賞」優秀賞(2007)		
⑧ 団体(学校・企業・NGO/NPOなど)の紹介(400字程度で簡潔に)			
<p>本校は、岐阜県可児市の中心部に位置し、市街地でありながら、商業地・農地・住宅地が融合した地域にあり、平成20年には、開校100周年を迎えた、長い歴史と伝統を持つ学校です。広い校庭と農園、自然の森、ビオトープと恵まれた環境の中で、全校児童514名がのびのびと活動しています。</p> <p>校庭には、100本を超える桜の老木があり、春には、市内の桜の名所として、夏には、ホタルの飛び交う学校として、市民の方々が訪れます。平成4年に本校PTAが市のホタルの保護育成事業の委託を受け、ホタルの保護と増殖を目的に地域の方の指導を受けながらホタルの飼育に取り組んでいます。6年生とホタル委員会、PTA事業部が中心になり、ホタルの幼虫を育て、ビオトープに放流し、成虫になったホタルを採取し、産卵、孵化させる活動を23年にわたり続けています。</p>			
⑨ 活動の目的・概要(500字程度で簡潔に)			
報告するメインの取組に○を入れてください。			
<input type="radio"/>	水辺の生きものに関する観察・保全活動を通じた水環境保全の取組		
<input type="radio"/>	河川など水辺における活動を基本とした水環境保全の取組		
<input type="radio"/>	いなくなった水辺の生きものを呼びもどすことを通じた水環境保全の取組		
	水循環を視野に入れた山や海での水環境保全活動		

校庭のビオトープ「いまみ川」「ほたる川」に、ホタルをたくさん飛ばそうと産卵、孵化、幼虫の世話と成虫になるまでの一連の飼育活動を、児童、職員、保護者、地域の住民、市が連携、協力し合っています。毎年3月にも、ビオトープにホタルの幼虫を放流するホタル放流会をPTA、地域の方を招いて行っています。放流できるまでに成長しなかった幼虫は、ホタル委員がホタル室で毎日カワニナを与えて、水換えをし、飼育をしています。5月下旬からPTA事業部がホタル飛翔確認を毎日行い、その中の数匹を捕獲し、ホタル室で産卵の準備をします。1か月後、孵化したホタルをPTA事業部、職員で毎日、数を数え、今年は、1万匹以上のホタルの孵化が確認できました。ホタルの幼虫のえさのカワニナは、市の許可を受け、6年生やPTA、職員で地域の川へ取りに行っています。6年生は、総合学習のテーマに「環境」があり、カワニナを取りに行く可児川の水質調査を行ったり、「ホタル講習会」で飼育の仕方を学んだりしています。

可児市とホタルの関わりや歴史を学び、本校の伝統であるホタル飼育から「ホタルを守ろうという心」、さらには、「生き物を大切に作る心」を育てています。ホタル飼育と環境を関わらせ、ホタルに愛着をもち、「生き物を大切に作る心」、「ホタルの生きる自然環境を大切に作る態度」を身に付けることを目的としています。

⑩ 活動の内容について、流れがわかるように記入してください。

なおその際、活動の成果（調べた内容や達成した内容）も写真やイラストなどを可能な限り添付（又は送付）して、可能な限り具体的に記載してください。

1)ホタル飼育について

①活動場所(校内ビオトープ、ホタル室、可児川)

本校には、校内ビオトープ「いまみ川」と「ホタル川」があります。ホタル川は、ホタル飼育専用の川で、校内で飼育したホタルの幼虫を毎年3月に放流します。毎年、夏には校内でホタルを観察することができます。



②ホタルの幼虫放流までの本年度の取り組み

5月～6月…飛翔確認

3月に放流した幼虫がどのくらい飛ぶことができたのか、飛翔確認を行います。19:30 開始であるため、PTA 事業部の方々が中心となって行います。また、学校でホタルを見ることができるといことで、本校児童や保護者、地域の方々も多数に見に来られます。淡く光るホタルを見つけては、子どもたちの嬉しそうな声が聞こえてきます。小さな光を灯しながら、精いっぱい光る姿に生命の力強さと、儚さを感じ取ることができ、生命の大切さを学ぶ場にもなっています。



給食時には、ホタルの飛翔が確認されたことを放送し、全校児童に伝えています。自分たちが育てたホタルが飛ぶのは、子どもたちにとっても大きな喜びです。また、児童玄関前の掲示物でホタルの飛翔記録を掲示したり、ホタル委員会の児童がホタル新聞を書いたりして、全校にホタルに関心をもってもらうようにしました。



今年度は、5月20日に ホタル委員の児童が今年初めてのホタルの飛翔を確認しました。21日から教員とPTA事業部が協力して毎日飛翔確認を行い、27日雄ホタル6匹、雌ホタル1匹を採取し、ホタル室で産卵の準備をしました。また、地域のホタル飼育の指導者より数匹、他地区で採取したホタルの虫かごをいただき、2つの虫かごで産卵の準備を始めました。飛翔確認は、6月12日まで続けました。

今年度は、のべ30匹のホタルを観測することができました。

6月～7月…産卵期

水を張ったコンテナの上に、底と上に網を付けて水草を入れた虫かごを置いて産卵の準備をしました。毎日、朝夕に霧吹きで水をかけ、飼育をしました。虫かごに採取してから、1週間は、光っていましたが、だんだん死んでいきました。1匹も生きていなくなってもしくは、毎日霧吹きを続け、水草に産んだ卵をコンテナの水に落としました。今年度は、今渡南小学校産のホタルと地域の方から譲り受けたホタルの2つの交配に成功しました。



(i) 孵化確認(6月22日～7月14日)

孵化確認は、本校の教員そしてPTA事業部の方々および地域の団体「そよ風」の皆様にも手伝っていただき行いました。1ミリメートルほどの小さな幼虫を1匹ずつ数える大変な作業ですが、PTA事業部の皆さんと子どもたちが意欲的に参加しています。

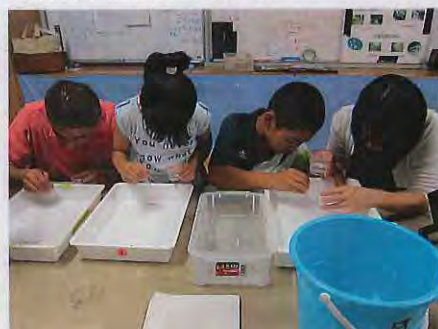
6月22日、採取して約1か月後に孵化が確認されました。初日は、300匹程度でしたが、2日目からは、2500匹を越え、2000匹以上以上の日が3日続きました。PTA事業部、児童、職員の協力で、夜7時半から1時間ぐらいかけて数えました。

7月14日まで孵化が確認され、今渡南小学校産514匹、その他が、10166匹で、合計10680匹の孵化を確認しました。



H27孵化確認表
種ホタル 匹採取(5月27日)
オス 6匹
メス /匹

日付	曜日	いまみ産	その他	合計
06月22日	月	0	310	310
06月23日	火	0	2,705	2,705
06月24日	水	0	2,732	2,732
06月25日	木	197	1,915	2,112
06月26日	金	22	590	612
06月29日	月	201	1,230	1,431
06月30日	火	29	21	50
07月01日	水	15	170	185
07月02日	木	2	50	52
07月03日	金	0	66	66
07月08日	水	35	44	80
07月10日	金	12	9	21
07月14日	火	0	324	324
合計		514	10,166	10,680
		5%	95%	



(ii) ホタル飼育講習会(7月14日)

6年生の総合的な学習のテーマの1つには環境教育があります。その一環としてホタルについても学習しています。また、夏休み前には、地域の指導者にホタル飼育講習会を行ってもらいます。講習会では、可児市に流れる川の説明からホタルとの関わりや歴史など様々なことを知ることができました。また、水換えやエサやりといった飼育方法も丁寧に教えていただきました。



7月～2月…ホタルの幼虫飼育

ホタル当番の毎日の活動



水換えと掃除



エサのカワニナを用意



カワニナを幼虫に与える

孵化確認後、3月の放流会を目指して幼虫の飼育が始まります。1匹でも多くの幼虫を放流できるように一生懸命活動しています。昨年の3月に放流できなかった越年のホタルの幼虫と、今年産まれたばかりの幼虫を飼育していきます。

普段は、ホタル委員が毎朝常時活動として、『エサやり・水換え当番』を行っています。たくさんあるケースの1つずつの水換え(コップ2杯分)を行い、ホタルの住みよい環境をつくっています。エサやりは、カワニナを幼虫の食べやすい大きさに切って、ケースに決められた数ずつ入れます。生まれたばかりの時は、1mmほどしかなかった幼虫も、少しずつ成長していくのが分かります。その小さな変化も子どもたちの喜びのひとつです。

夏休みの間はホタル委員に代わり、6年生が飼育当番を行います。7月の飼育講習会で学んだことを生かして、6年生全員で取り組みます。20年ものホタル飼育の伝統を6年生が引き継ぎ、途絶えさせないように飼育を行うなど最高学年として、ホタル飼育の伝統を守っています。

11月…幼虫の選別作業

今年、孵化して、育ててきた幼虫と昨年度から育てている越年の幼虫を大・中・小の3種類に選別し、数を数えていきます。11月7日に、PTA事業部の保護者、児童、教員、地域の指導者「そよ風」の方で行いました。指導者から大・中・小の大きさのサンプルを見せていただき、一つ一つのコンテナにいる幼虫をバットに移し、スポイトとカップを使って分けていきました。3時間以上かけて、大ホタル93匹、中ホタル282匹、小ホタル2975匹、合計3350匹を選別することができました。



3月…ホタルの幼虫放流会(昨年度の様子から)

放流会に参加するのは4～6年生です。

はじめに、議員さんをはじめ、地域の方々を来賓として招き、体育館で開会式とホタル委員の活動報告とともに、伝統的な飼育の活動を通して、「生き物を大切に作る心」の継承を確認します。

3月に放流した幼虫は、5月に飛翔確認をすることになっています。そのため、ホタルの幼虫に「大きくなってね。」や「5月に飛んでね。」という願いを込めて声をかけながら一人1匹ずつホタル川、いまみ川に放流を行います。

ホタル委員は、可児川でも放流を行い、可児市にホタルが戻ってくるように活動を行っています。





その他…ザリガニゲット大会（今年度）

校内ビオトープにはザリガニが生息しています。ザリガニは、ホタルの天敵です。そこで、ホタルを守るために全校に呼びかけを行い、ザリガニを捕まえる活動を行っています。

前期は、6月に低学年、高学年2日に分けて行いました。主に低学年の子ども達が意欲的に参加していました。

ザリガニを捕まえる前に、ホタルクイズを行い、ホタルの理解を深めたり、参加賞としてホタルの絵のついた手作りのしおりを配ったりしました。見事ザリガニをゲットできた児童には、手作りメダルをプレゼントしました。

後期は、全校一斉に行いました。高学年が低学年を温かく見守りながら楽しく活動ができました。いまみ川を通して、児童同士のふれあいがもてました。参加賞のしおりも大好評でした。

ホタルの飼育には、基本的には5・6年生しか関わりがありませんが、ザリガニを捕まえるという活動を通して、間接的に「ホタル」に関心をもてる取組となっています。



2) 6年生の総合学習について

学級毎に年に2回(夏と秋)、可児市を流れる可児川へ行き、水質調査と水生生物の観察を行っています。可児市役所の環境課の方々に、調査方法や結果の見方を教えていただきながら活動を進めます。初めて使う道具も多く、子ども達も意欲的に取り組んでいます。身近にある川でありながら、ふだんあまり関わりがないということで驚きがたくさんあります。これらの活動を通して、可児川を身近に感じ、ふるさとの環境を大切にしていこうとする気持ちを育てています。

①水質調査

万能試験紙、透視度計、パックテストの3つを用いて数値的な水質を調査します。

日にち・クラス	pH	透視度	COD
5月22日 (6-3)	6	27 cm	8 以上
6月11日 (6-2)	6	32.5 cm	6
6月25日 (6-1)	6	26.5 cm	8
9月 4日 (6-2)	6	100 cm	8
10月14日 (6-3)	6	99 cm	8
10月21日 (6-1)	6	85 cm	8



この水質調査を通して、夏から秋にかけて水の透明度が上がっていることに気がきました。

見ただけでは分からない水質の実態を知ることができました。



②水生生物の観察

実際に川に入り、水生生物を捕獲します。万能試験紙や透視度計など数値的な水質ではなく、生息している生き物から可児川の水質を考えます。想像以上にたくさんの生き物がいることを知りました。



水質調査が終わってから、ホタルのエサとなるカワニナの採集と可児川、周辺のゴミ拾いを行います。

⑪ 活動で工夫したことなどを記入してください。(500字程度で簡潔に)

この活動の最も大切にしていることは「命の連鎖・サイクル」です。ホタルの幼虫を育てて成虫にする。その成虫が卵を生み、次年度の幼虫となります。この命をつないでいくために児童は一生懸命活動を行っています。そして、子どもたち自身が生き物と実際にふれあい、「生き物を大切に作る心」という伝統を引き継いでいます。

ホタルの飛翔確認や孵化確認は、PTA事業部が中心になって行っていますが、親子で参加するように呼びかけました。親子でホタルの飛び交う様子を目にすることは、親子のふれあいを深め、大きな共通の感動体験になります。この体験をした子どもたちは、次の孵化確認やいまみ川の清掃活動、カワニナ採集などPTA事業部のその他の活動にも積極的に参加していました。親が一生懸命がんばって作業する姿を見て、子どもたちも意欲的にいろいろな活動に取り組んでいました。この活動での子どもたちの頑張りを褒め、ホタルの飼育に興味をもたせることは、ホタル委員会の児童の意欲を高めることにもつながりました。またホタルの脱皮など、大きな変化があったときは、児童にその様子を見せて、興味をもたせるようにしました。ビデオで脱皮の様子を撮影したり、お昼の放送で、飛翔確認や孵化確認を知らせ、いまみ川へ見に来よう呼びかけたりしました。実際のホタルの姿を見ることは、児童の興味、関心の高まりにつながります。

ホタルに興味をもってもらうよう、地域のホタルに関わる催しの参加を授業参観を利用して、全校の保護者に呼びかけたり、PTA事業部の保護者に直接呼びかけたり、ポスターを貼ったり、お昼の放送を使ったりして、児童だけでなく、保護者を巻き込んで親子でホタルにふれあえる場を増やしました。

⑫ この活動を通して、指導者から見た子どもたちの意識の変化、行動の変化などがあれば記入してください。(500字程度で簡潔に)

毎日、ホタル委員会の児童と一緒に世話をしながら、世話の仕方を指導したり、幼虫の変化を教えたりする中で、子どもたちの自主的な世話をする姿が見られるようになりました。始めは、臭くて大変な仕事をどうして毎日、楽しそうにやっているのか不思議そうに見ていた子どもたちも、脱皮する姿や日々、大きくなっていく幼虫の姿を見せていく中で、ホタルに対する愛情がめばえ、大切に育てていこうという気持ちが高まったように思います。当番でない時にも、自主的にホタル室を覗き、仕事を熱心にしていました。カワニナのエサやりや死んでしまったカワニナの処理、水槽の水換え、幼虫のコンテナの水のごみ取りなど、大変な仕事を仲間と協力しながら楽しそうにホタル室に通うホタル委員を見て、一緒に手伝う児童が増え、「ホタルの飼育って楽しい。後期、ホタル委員になろうかな。」と言う児童も見られました。

前期に親子で事業部の活動に参加したことをきっかけに、ホタル委員となり、意欲的にホタル飼育に関わっている児童を見て、ホタル飼育により家族のつながりが育まれていることを感じます。

冬休みのエサやりや水換えもボランティアでやりたいと名乗りをあげるホタル委員会のメンバーがたくさん出てきたことも大きな変化です。

⑬ この活動を通して生まれた、地域との新たなつながりや新たなアクションがあれば記入してください。(500字程度で簡潔に)

可児市では、毎年6月に「ほたるコンサート」を行っています。オカリナ奏者の宗次郎さんのコンサートの後、1000匹のホタルの成虫を可児川に放流しています。ホタル飼育に関わっている本校の児童にぜひ、この放流会に参加してほしいと市の関係者から依頼があり、全校児童に呼びかけをしました。多くの児童がこの放流会やコンサートに参加し、保護者と一緒にホタルにふれあうことができました。

また、毎年2月に行われる「可児市環境フェスタ」では、ホタル委員会の児童が環境学習の展示とステージ発表を行い、「今南伝統のホタル飼育」という発表テーマで市内の人々に本校の取組を広めています。

今渡南小学校は、読書活動が盛んで、本年度「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣賞表彰を受けましたが、そのお祝いに、地域の方から「蛍とび 照らす明かりが 本の上」という句をいただきました。

読書とホタルに力を注いでいる今渡南小学校という印象が市内では定着しています。市内の行事への協力を通じ、本校の取組を発信することで、よりホタル育成や環境への関心が深まり、学校と保護者、地域がつながっていると実感しています。

⑩ザリガニゲット大会について

これは、ホタル委員会の年間行事に入っており、5・6年のホタル委員のメンバーが、全校の各担当クラスに案内の掲示用プリントを持って、朝の会に直接、呼びかけやお知らせをしています。日時の他に、捕まえるときの注意や約束、持ち物についてもお願いをしています。

ザリガニゲット大会の当日には、ホタル委員会委員長がお昼の放送でも参加を呼びかけています。担任の先生方は、委員会からのお知らせを受けて、早めに給食を食べさせて、外へ出してくださったり、児童の様子を一緒に見に来てくださる先生もみえますが、児童が主体の活動です。

参加の児童が全員集まった後に、ホタル委員会のメンバーが司会、進行をして始めます。ホタルに関するクイズやピオトープの使い方についてのお願い、安全に活動ができるための注意や約束を確認してからザリガニを捕まえます。

ザリガニを捕まえた児童には、メダルをプレゼントしました。また、参加賞として、ホタル委員会が作ったしおりを全員にプレゼントしました。

前期は、低学年（1～3年）の日と高学年（4～6年）の日に分けて2日間の昼休みを使って行いました。

低学年の方が、ザリガニを捕まえることに興味がある子が多く、メダルのプレゼントにもつられて、たくさんの児童が集まってくれました。

高学年にも、参加賞のしおりは好評でしたが、今までに何度も経験していることもあり、低学年ほどの参加の人数はありませんでした。

ホタル委員会のメンバーは、2日間ともに参加をし、司会進行とともに、全校の児童の見守りをし、裏方として頑張っています。

後期は、日程的に2日間とることが難しかったので1日で全校一斉に行いました。

後日、委員会で、この活動の振り返りをしたり、ホタル新聞をつくったりしました。

※こども発表者については、決まっていない場合、記入しなくても構いません。

① -1. 選考された場合の発表者（こども2名）の氏名・学年		
氏名：	ふりがな：	学年：
氏名：	ふりがな：	学年：
-2. 選考された場合の大人の登壇者（1名）の氏名・所属		
氏名：	ふりがな：	所属：



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

〈ホタル委員の常時活動〉

ホタル委員は毎朝、交代でホタルの幼虫の世わをしています。えさやりでは、近くの川で取ったカワニナの殻をわり、幼虫にあげています。殻から出したカワニナは内臓が見えていて正直少し気持ち悪いけど、カワニナも生き物なので大事な命をうばってしまうことが少しつらいです。なので大変なえさやりの作業もカワニナの命に感謝していねいに行っています。

水そうの水かえでは、カップを使って水そうの水を入れかえます。幼虫はとても小さいので、水をすくうときにいっしょに幼虫をすくってしまうことがあります。すくわれた幼虫は死んでしまうので注意して水をすくわなければいけません。

ホタル委員では主にこの2つの仕事を毎朝行っています。こうして成長した幼虫は学校にあるホタル川に放流され、夏に成虫になって夜空を飛び回ります。

このような活動を通して私たちは「生き物の命を大切に
する心」を学んでいるのです。





2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っ
自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

気付いた事

- ・大、中、小とホタルがいる。
- ・ホタルの養虫に少しふれるだけでくるんと丸まる。
- ・体に点々がある。
- ・前に体をおすようめ感じて前に進む。(うしろあしで)
- ・ホタルは、たいてい丸くかたまっている。
- ・おすは大きく、めすは小さい。
↓ ↓
飛び 光らない
光る
- ・ホタルの養虫は、大きいホタルより、小さいホタルの
ほうがカワニスをたくさん食べる。
- ・だっひ。すると体が黒→白になる。

※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。



ホタル委員になっただけの時は

ホタル室がくさく、ホタルの世話の仕方

もよくわからなくて、「ほかの委員会に

すれば良かった」と思っていたけど、

だんだん世話が楽しくなってきた、ホタルが生長すると、私たちも

うれしくなり、ホタル委員で良かったと思えるようになってきました。

また、ザリガニGET大会でも、たくさんの子が来てくれて、みんな

楽しんでくれたので、うれしかったです。

全校のみんながすこしでも、ホタルのこと

を、知ってくれると、前期の私たちでもうれしく

なります。



※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



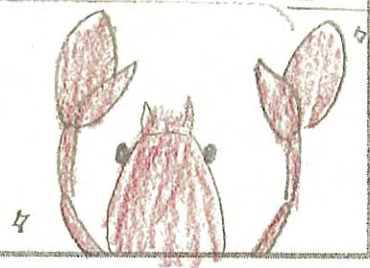
2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。



ホタルのよう虫は、足がしら
けい。て、はじめて見
たときは、「きもちわるい」
とおもったときもあった
けど、いいくしていろ
うちに、「かわいいな」
と思うようになりました。
た。

カワニナをわる時に、ちょっとくさくて、
かたくて、わりにくかったけど、今は
もうなれてすばやくわかるようにな
りました。ガリカニゲツ
ト大会では、みんな、一しょうけ
んめいにさがしてくれていた
ので、うれしかったです。



※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

私は、2年れんぞくでホタル委員をやって、六年生で初めて知った事がありました。五年生の時よりもホタルがとんちんかんな生き物で、とんちんかんな事がホタルにとっていいことや悪いことが知ることができました。そして、気をつけてやったことは、水かえをする時に、下の方をすくうと小さいよう虫をいっしょにすくってしまうのでなるべく上の方をゆすりすくうことを気をつけました。

私は、六年生になつてはじめてホタル委員をやって、最初は、カワニトをわたり、水をかえたりするのかが大へんであまりやりたくが、たときもあったけどホタルも一ひき一ひきに大切な命があるのでそれを自分たちが育てていくというのは、とても大事な事だとわかん、今まではいっしょけん命しごとをしています。

※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

ホタルは、ホタル委員になって命の大切さを知ることができました。
 はじめは、カワニナなどをわるのは、いおた、たけど、飯田先生に「ホタルにあげるエサだからね」と言われて、ホタルにあげるエサだから、かえはろう」と思っていました。
 私は、特に水かえの時に「ホタルをすくわれないように」と思いながら、しるょうにわっています。最近では、ホタルのよう虫が少し大きくなっているのじとて嬉しいです。もつ、命の大切さを知っています。

ホタルのよう虫にエサをあげて次の日、ホタルを見に行くと、ホタルのよう虫が、だひをしいたことが感動的でした。
 ホタルにあげるカワニナの赤ちゃんやカワニナを大切に育て感謝して、ホタルにあげています。
 自分たちで育てたホタルが大きく成長し、放流され自然にまじること、とても感動のあるものと思えました。また、生物を大切に育てることをこめ、育てることほとても大切なことだと思えました。



※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

活動をしていて、ホタルのよう虫が、
だっぴしたのを発見しました。その
時、よう虫を、大切に、育
てていて、良かったなと思
いました。最所、カワニナ
をつぶすのは、いやだった
けど、ホタルの幼虫が、一
生けん命にカワニナを食
んでいるところを見て、ぼく
達もいっ生けん命にやりました。



2015 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

ホタルをせあしてみて、カ
ワニナをわる変なカタカタ
り、水かえもホタルがいっしょに
すてないようにすることがた
いへんでした。
ホタルがいがい弱い
ことにおどろきました。
ホタルがうしろにとべるよ
うにもっとがんばっていきたく
いです。